

## 人間・生活・都市・学

### (1) 研究題目

人間・生活・都市・学 (UP0403)

(人間を中心としてみた生活圏の拡がりとしての都市という概念、その都市総体のありかたの研究を包括的な学として確立させる)

### (2) 研究代表者

北山恒 大学院工学研究院システムの創生部門

人もの空間のシステム分野教授 kitayama@ops.dti.ne.jp

### (3) 研究の目的

都市が成熟・拡張せずむしろ減衰する都市型社会に関する研究が欧州で始まっている。しかし同時に、現在都市化しつつある国々では人口の急激な増加をまねきグローバルゼーションにより超高層建築が林立し始めた巨大都市も出現している。前者のような課題を抱えた社会では、中心市街地の空洞化に対処するための研究やユニバーサルデザインをはじめとする質の高い生活空間獲得のための研究が、また、後者のような課題を抱えた社会では環境破壊や文化破壊に対処する研究がなされている。両者は対照的な現象であるが、環境とその持続可能性に関する研究はいずれの場合にも強く要請されており、これらを融合する建築都市の理論が求められる。また、都市は人間の生活の場所であり、そこには豊かな自然や身近な公共空間とともに、歴史的継続性や豊かな文化的創造が育まれなくてはならない。横浜という都市はこれらの両面を研究するのに適した場である。

本研究の最終的な目的は、次世代に構築しなくてはならない都市環境を、建築、交通、機械、人間などの個々の技術だけでなく、哲学や理念に裏打ちされた私たちの文化そのものを包括した、眼に見えるデザイン、すなわち環境包括デザインとして表現することである。本研究における成果は、わが国のみならず、わが国とは発展段階の異なる都市型社会(欧州、米国)および都市化社会(アジア)の国々の両者に有益な研究成果を発信し、それぞれの社会の空間創造に寄与し、世界的に大きな社会的意義を有すると考える。

### (4) 研究体制

4つのサブグループを組織し、相互に有機的に連携しながら研究目的を実現し、その成果を社会へ伝える有効な媒体として環境包括デザインを開発する。

- 1) モビリティマネージメント (代表 高田 一)
- 2) エリアマネージメント (代表 高見沢実)
- 3) ストックマネージメント (代表 田才 晃)
- 4) デザインマネージメント (代表 北山 恒)

### (5) 研究に関連するキーワード

福祉、交通、情報、まちづくり、エコミュージアム、環境、社会基盤、デザイン、建築、横浜

### (6) リンク先

- ・モビリティマネージメント [http://vib.me.ynu.ac.jp/takadalab/gakusai\\_p/](http://vib.me.ynu.ac.jp/takadalab/gakusai_p/)
- ・エリアマネージメント <http://www.arc.ynu.ac.jp/~usr006/>
- ・ストックマネージメント <http://www.arc.ynu.ac.jp/~usr007/>
- ・デザインマネージメント <http://www.archws.com/>

## ■ 都市という人間・生活の現場から問題のシーズを発見し、そのシーズを発芽させ、研究に育てるプロジェクト群

